

Profile : 白滝治郎
 1998年1月4日生まれ。岐阜県郡上市在住。中部銀影会会長。早春からアユ釣り解禁までは溪流でアマゴ、長良川本流でサツキマスを追ひ、夏場はアユの友釣りに通う。

主要ポイント、オトリ店網羅！

長良川 入れ掛かり アユMAP

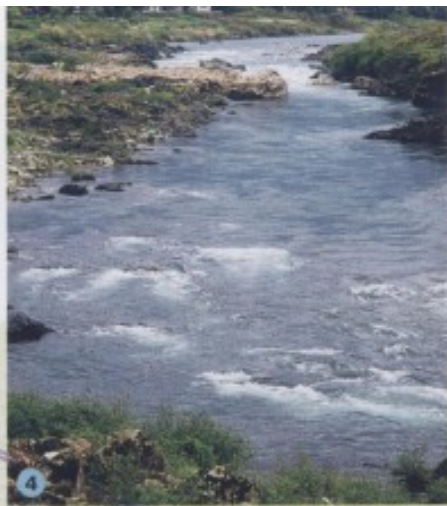
郡上漁協
 管内編

西日本有数のアユ名川・長良川。釣り場は長く、流れは変化に富む。特に水量のある場所ではポイントを絞りにくい。地元名手・白滝治郎さんが釣り場のようす、ねらい方を丁寧に解説！今回は、長良川の友釣りメインポイントである郡上八幡を中心に紹介。

白滝治郎 解説 北圃政司 イラスト



●大場所続く郡上漁協管内最下流 白石橋下流から 深戸新田



写真の奥に見える荒瀬「ドオクの瀬」は、大アユねらいのファンには絶好の釣り場



「のどかの味処みやちか」(旧木尾ヤナ)付近。水深のある淵への落ち込みがねらいめ

長良川鉄道・みなみ子宝温泉駅は、駅舎が温泉施設「子宝の湯」(☎0575・79・4126)に直結している。入浴料は大人500円、子ども250円。なお長良川鉄道利用の場合は入湯税50円のみで入れる



勝原橋から下流を望む。ト口場は泳がせでねらい、下の瀬は引き釣りで

白石橋下流。写真で流れが左にカーブした辺りの、右岸側は好ポイント

縦り込みからラッカリにかけて好ポイント

天然ソ上好調の 今夏は期待大!

今シーズンの長良川は天然ソ上が極めて順調であり、河口で計測されるアユのソ上量は4月末現在です。本格的にソ上調査が開始された平成8年以降では、過去最高のソ上量を記録している。上流の郡上漁協管内でも4月下旬から多くのソ上アユが見られるようになってきており、好調だった昨年以上の期待が持てる。

アユ名川として知られる長良川の、郡上漁協管内の友釣りポイントを解説しよう。



郡上市と美濃市の境が、郡上漁協と長良川中央漁協の境

白石橋下流は郡上漁協管内で最下流にあたり、白石橋下流約1kmに長良川中央漁協との境界がある。白石橋下の長ト口が絞り込み、右岸に向かってぶつかる岩盤際がねらいめ。終盤には左岸寄りの浅場や、下流の中電堰堤上にあるマナゴ(小石)底でよいアユが掛かる。「のどかの味処みやちか」前では、中州を挟んで右岸側にヤナが設置されるので、左岸側の流れが落ち込んだ淵が一番のポイントになる。右岸から立ち込んで、10mの長ザオで左岸寄りからねらいたい。

勝原橋下から鉄橋にかけてのト口場は泳がせで、鉄橋下の瀬は引き釣りねらう。鉄橋下の瀬は年間を通じてよい場所。

新吉田橋付近では、橋から下流は長い瀬が続くポイント。増水時はオモリを使った引き釣り、濁水時はノーマル仕掛けの引き釣り泳がせでねらう。橋上流の淵は水深があり、押し強い流れとなっており、オバセを大きくとった泳がせで釣る。

さらに上流は「ドオクの瀬」と呼ばれ、大岩を噛んで流れる激流になっている。大アユねらいの1級ポイントである。

釣り人憧れの地 郡上八幡

大滝ヤナ跡から下流にかけては長い瀬が続く、さらに下流では瀬と瀬が連続する。ヤナ下の瀬は右岸からの引き釣りがおすすぬ。

法伝橋下流のガンガン瀬が右岸大瀬を形成し、「イカリ場」の瀬へと流れ、水深のある瀬と瀬が連続する。瀬は大アユの一発ねらいで、数を出すなら淵尻（瀬尻）がよい。「カシの木瀬」ヒラキから下流の瀬もよいポイント。

大稲付近では、「穀見の中州」で左右に分かれた流れが合流し、その荒瀬が長ト口へと流れ込む。荒瀬の引き釣りからト口場の泳がせまで、いろいろな釣りが可能だ。下流の「弁天」、「箱坂瀬」と好ポイントが続く。

郡上漁協前では、「出合の瀬」から続く長い瀬が「岩門」を通して「立壁」のト口へ流れ込む。「岩門」から上流の瀬は引き釣りで、「立壁」は泳がせでねらう。年中釣り人で賑わう、長良川のアユ釣り銀座だが、釣果も安定しているエリアだ。

勝更大橋から吉田川出合にかけては、「五町瀬」という早瀬が続く。増水時は引き釣りで、増水時は泳がせ釣りで、左岸から右岸をねらう。「五町瀬」が流れ込む「出合の瀬」は、サモト（淵頭）とヒラキ（淵尻）がねらいめ。



大滝ヤナ跡付近。長い瀬が続く釣り場だ



荒瀬とト口瀬の連続
大アユポイント



法伝橋から下流を望む。ガンガン瀬から水深のある瀬へ落ち込み、さらに「イカリ場の瀬」が続く



上流は中州があり、流れが分かれて瀬になっている



法伝橋のすぐ上流も荒い瀬。右岸（写真左側）が主流になっている



大稲付近。川の真ん中で頭を出しているのが「ハカリ岩」

●水質もアユもいうことなし！
長良川屈指の好エリア
**大滝ヤナ跡付近から
「中元三ツ川」**

大会も開かれる 変化に富んだ流れ

中元橋から上流の大淵は、沈んだ岩盤の周りに大石が敷き詰められており、徹底した泳がせ釣りがなう。じっくり粘ると数値がまとまる。こども、一日粘る価値がある釣り場といえる。

「神路の長トロ」は、左岸寄りにいい石が入っている。右岸から泳がせて釣ると数が出る。長トロのヒラキ（ト口尻）はアカ残りで、増水後の入れ掛かりが期待できる。「割れ岩」へと続く瀬は、大アユが出る。「割れ岩」では、淵全体にある沈み岩盤の周りをねらう。



1 中元橋上流の荒瀬。白波が立つ流れは退へと続く



釜淵橋下流は荒瀬で、良型がねえる



5 釜淵橋上流にあるのが「釜淵」。岩盤の際や、流心にある大石淵の際を泳がせるとよい。淵へ続く落ち込みは荒瀬になっている



3 和合橋上流の源は、淵頭付近に大石が入っている好ポイント



4 杉ヶ瀬ヤナ下流の瀬。左岸寄りがねらいめ



2 岩盤底の城下瀬付近。岩盤の際で良型が掛かることも

● 男性的な川相が魅力 中元橋から和田川出合



2 岩盤底の城下瀬付近。岩盤の際で良型が掛かることも



2 岩盤底の城下瀬付近。岩盤の際で良型が掛かることも



3 和合橋上流の源は、淵頭付近に大石が入っている好ポイント



4 杉ヶ瀬ヤナ下流の瀬。左岸寄りがねらいめ

● 男性的な川相が魅力 中元橋から和田川出合

盤固り。泳がせ釣りで数が出る。淵の上下流の瀬もよい。

高速道路の大和橋下からの瀬は、和合橋上流で淵へ流れ込む。この淵の淵頭から少し下流にかけて、大石が入っている。和合橋から下流は平坦な川相だが、湯水時に泳がせでねらうと思わぬ数が出ることがある。

西河橋の上下はチャラ瀬で、左岸側の水深がやや深くなっている。そこを中心に釣るとよい。チャラ釣りの好きな人にはおススメ。橋の上流にある「杉ヶ瀬淵」も、泳がせ派にはおススメ。

「杉ヶ瀬ヤナ」から下流は、瀬が続く。左岸寄りにある袋状の流れを中心にねらうと、型が揃う。ヤナから上流はト口瀬になっているが、増水時は早瀬と化し、良型の数釣りができる。

釜淵橋下流は岩盤の間を縫うように流れる荒瀬のポイントで、数段の袋状の流れになっている。流心を引いたり、流れの際を泳がせたりと多彩な技を繰り出すと釣果が伸びる。アユの型はよいポイントだ。

ウインドパーク前は、「ダイワ鮎マスターズ」中部地区大会の大会本部前となる。

高水るときは早瀬、湯水するとチャラ瀬になる場所。全体的に釣れるが、右岸の岸寄りが一級ポイントになる。下流にあるト口淵はアユが溜まり、釣期も長い。

名血部橋上流では、「剣の宮下」から続くチャラ瀬が開いて、ト口へと流れ込む辺りがよい。宮下淵から上流にかけては長い瀬が続く



この辺りは、多くの大会が行なわれるエリア。それだけよく釣れる場所でもある

ており、瀬釣り派には垂涎のポイントとなっている。

万場橋下から用水塔までは、右岸が流心になっているので、左岸から立ちこんで岸際を釣る。用水塔から下流は瀬が続き、変化に富んだ流れなので引いたり泳がせたりと多彩な技を繰り出せる。

万場鉄橋下の瀬を挟んで、上流がト口、下流が淵となっている。鉄橋上の竹ヤブ前、「大マキ淵」は、深ト口で良型が釣れる。水位が高めの時には数釣りが可能。

旧万場ヤナ下は、深ト口と瀬が連続するポイント。入川口が分かっていくので、いつも比較的空いている。泳がせ釣りで、水深のある場所をねらうとよい。

和田川出合付近は、左岸にナシ畑が広がるので通称「ナシ畑」という。この辺りも隠れた名ポイント。以前と比べると単調な流れにはなったが、水深のあるト口場を中心に釣ると良型が出る。



「旧万場ヤナ」のト口へ続く落ち込み。水深のある場所を泳がせでねらうとよい



「鉄橋下」の瀬は好ポイント。また鉄橋上のト口も見逃せない



地元で「ナシ畑」と呼ばれるこの辺りは穴場といえる。良型も出る場所だ



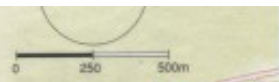
万場橋下流。右岸が流心になっており、そちら側をねらうとよい



大島橋上流は変化に富んだ流れで、良型も望める



上方場橋上流は「神宿り淵」と呼ばれる。淵頭がおススメ



越佐橋上流。橋付近はトロコになっている



奥美濃大橋から下流を望む。瀬は増水時に引き釣りでもねらうとよい



奥美濃大橋のすぐ上にあるトロコは、シーズンを問わず人気の釣り場

●長良川の友釣りポイント
最上流エリア
**上方場橋から
下向橋**

初心者でも
ポイントが
絞りやすい

上方場橋から下流には、両岸に流れが広がる瀬が続く。よい石が入っており、初期に数釣りができる。橋から上流の「神宿り淵」は、淵頭が一級ポイント。
大島橋付近では、上流の「吊り橋跡」から下流の「曲り瀬」まで長い瀬が続く。大石が多く、変化のある流れが上流部にはは型のよいアユを育む。
越佐橋の上下はトロコ場。橋下流にある越佐堰堤から下流は瀬と深トロコが続く。解禁当初に実績があり、下流の「ナガレ」付近には、昔は「ミツマドンボ」、「ツナサドンボ」と呼ばれるよい淵があった。
奥美濃大橋上流の「サイガワ」と呼ばれるトロコ場は、解禁当初から終盤まで賑わう。橋から下流の瀬は、増水時引き釣りでもねらうと数が出る。この付近までは、天然アユも多くソ上する。
白鳥高原駅付近には、向山橋、下向山橋と2つの吊り橋がある。

